

ろんだん 佐賀



佐賀大学
ダイバーシティ推進室副室長
荒木 薫さん

あらかき・かおる 1979年、長崎県佐世保市生まれ。佐賀医科大学卒。小児科医として県内の病院勤務を経て佐賀大学大学院医学系研究科に進学し医学博士号を取得。佐賀大のダイバーシティ推進室副室長、保健管理センター助教に就任し、大学内のダイバーシティ推進や学生のキャリア教育、教職員の健康管理などを担う。佐賀市。

先日、別の部署の女性が、生まれて半年ほどの小さくかわいらしい赤ちゃんを抱え、私に声をかけてきた。「育児休暇を終えて来月から職場復帰します。フルタイムです。今日はそのあいさつにきました」と。私は思わず、「時短勤務を選択できなかったの？」という言葉を口にした。彼女の職場はとても忙しい。保育園のお迎えに間に合うのだろうか、最初から頑張っているからきつくないだろうか、とつさに思ったからである。すると彼女は、「やっぱり早まりましたかね…」と不安そうな顔をみせた。

みなさんなら、どう声掛けをするだろうか? 「こんな小さな子どもを預けるなんてかわいそう」「自分の時代は育休など取れなかった」「あなたがそんなに頑張ったら、次

アンコンシャス・バイアス

十人十色の事情に意識を

に復帰する人がしんどくなる。大量の情報を取得していかもしれないよ」。いろんな人間が1秒間に取得する回答があると思う。それはき情報は何と1100万件。脳つと、自分の今の立場や過去の経験・習慣で得た情報に基づくものではないだろうか。

近年、ダイバーシティに大きく影響する話題のテーマとして、「アンコンシャス・バイアス」という概念に関心が

一人ひとりの価値観や事情が多様化していく時代、相手にとって自分の考えが当てはまるとは限らない。自分が持っている無意識のバイアスに気づき、時には自分の確信を疑い直し、そう伝えた。

さて、今回私が書く「ろんだん佐賀」は最後となる。1カ月半ごとにテーマを探し、それに関連した多くの本や論文、新聞を読みあさった1年だった。付け焼き刃だと嘆きながらも、振り返ればたく

高まっている。日本語で「無意識の偏見」と訳され、自分が持つ「無意識のバイアス」に気が付かないまま、こ

見方や捉え方の偏りのこと。時として相手を傷つけた。個人々の事情は十人十色。本人は、本当にせいたくはない。あり感謝してもいけない。この経験を糧として、これからも教育者として医師として、佐賀や大学のために精進

私たちは五感を使って一度な弊害を生み出してしま

私たちが五感を使って一度な弊害を生み出してしま

